

江東未来会議
第1分科会（子育て・教育分野）
第3回 議事概要

日時：平成19年11月7日（水）19:00～21:05

場所：文化センター6階 第1・2会議室

参加人数：22人

1．開会

2．事務局からの連絡事項

（1）配布資料の確認など

- ・配布資料の確認
- ・名簿に通し番号を付したことの確認

（2）グループ内での自己紹介

高重コーディネーター

- ・ワークショップを進めるにあたって、前回から、1ヵ月近く経っているので、若干時間をとって、グループ毎1ヵ月間の出来事など、お話いただいて、交流を図っていただきたい。

【グループ毎の交流時間】

3．本日のワークショップの進め方について

高重コーディネーター

- ・望ましい将来像に向けた課題の検討についての資料をご覧いただきたい。
- ・前回望ましい将来像を検討していただいた。それを実現していく上で現実的には様々な問題をかかえている。その問題や課題、実現のためにやったらよいことを本日の検討の目標にしていく。
- ・はじめに、前回のグループごとにご検討いただいた将来イメージを、事務局で並び替えた資料がお手元にあると思うが、その統合したものが、皆さんのお気持ちにあっているかどうかをまず、ご確認いただきたい。
- ・その上で、今後将来像を実現するための問題点・課題の検討にはいりたい。
- ・やり方は、前回と同様で、ご自分の意見を一枚の付箋紙に書いて、それをグループごとにトランプ談義によって集約し、最後に4つのグループ毎に発表していただく。
- ・はじめに、前回資料を取りまとめた並び替え版をご覧いただきたい。一枚目が子育てに関する将来イメージで、子ども像、子どもを育む家庭や学校や地域の連携などのあり様、二枚目が教育についてまとめられている。この取りまとめに関してご意見やご感想があ

れば、ご発言いただきたい。

参加者

- ・範囲が広く頭の整理がつかない。

参加者

- ・グループのまとめと、並び替えたものがあるが、タイトルがわかりにくいので、タイトルにグループ、統合などの表示をいれてほしい。

参加者

- ・家庭における問題、学校の問題、地域の問題、行政などがあって幅が広い。この第一分科会で検討するのは1つか、2つと言われていたように記憶しているが、どの分野を重点的に検討するのかわからない。

高重コーディネーター

- ・その件については、参加者が多く、ご関心分野も異なっていると思う。前回・今回までは広く皆さんがお持ちの意見を出していただき、次回以降、皆さんのご関心分野の傾向をみた上で、テーマを絞り込み、ご自身が参加したい分野に別れて、ご参加いただくことにしたい。その段階から、テーマごとにアイデアまで踏み込んでご検討いただきたい。今回までは、全体に関わるものを全体で議論したい。
- ・並び替え版について問題がなければ、これを前提として本日の検討の中身にはいっていききたい。
- ・本日は、平成30年の理想に対して、現状とのギャップにおける様々な問題や解決の方向性について、お手元の付箋に記入してほしい。記入にあたっては、将来像一つ一つに対応していなくてもよい。

4. ワークショップ

(1) 作業

子育て・教育分野の将来像にむけて、江東区の問題点や課題などを個々人が付箋紙に記入した。その後、4つのグループ毎にトランプ談義方式により将来像に関する討議を行った。

【グループ毎に作業】

(2) 発表

【作業結果】詳細は別紙(「第3回江東未来会議 子育て・教育分野」グループ別取りまとめ)参照

Aグループ

- ・全体を7つほどのグループにわけた。一つは親の教育の必要性についての問題である。次は地域との関係の問題についてであるが、地域が交流できるような環境づくりが必要であり、特に、世代間交流ができるような環境や場づくりが必要という議論になった。
- ・このような地域における交流が進むことは、子どもの安全が守られるような地域づくり

にもつながっていくと考えた。

- ・教育については、様々な問題が挙がっており、完全にまとめきれていない。中では、学力の重視と個性を大事にするという大きな論点があった。学力については、子どもが成長して、普通に暮らすための武器となるので重視してほしいと考えるが、それだけで子どもを評価するのではなく、人間性を育てるような教育体制が必要と考えた。
- ・そのためには、少人数教育や基礎から身に付けられる教育、創造性を育むような教育の必要性が挙げられた。
- ・行政に対する要望としては、施設は粗末でも十分なサービスを提供することが重要ということである。ハードや箱モノに対する補助金ではなく、今後はソフトへの助成ができるような仕組みにしてほしいという意見である。

Bグループ

- ・教育施設の有効活用という点では、廃校の利用や授業時間以外の時間の活用ということが挙げられている。
- ・教育体制の確立ということであるが、経済的な格差によって、教育を受けさせられるかどうかの格差が生まれているので、そこを補助する仕組みが必要ということである。
- ・土曜日は、学校は休みであるが、授業をしてほしいということが挙げられた。ただし、その場合には、教師を確保することなど財政的な負担もある。
- ・子育ての相談窓口の設置の必要性や子育て支援のためのコミュニケーションの場が必要という点も挙げられた。
- ・情操教育という点については、よい教育を子ども達に与えたいということである。ボランティアによる絵本の読み聞かせや、大きな子どもが小さな子どもに絵本の読み聞かせをするなどによって、大人と子ども、子ども同士のコミュニケーションが図られるのではないかという意見である。
- ・また、江戸仕草や昔遊びなどを子どもに紹介して、江東区に残る伝統を子どもに伝えていくことと同時に、大人と子どもの交流も図られるのではないかと考えた。
- ・小中学校の校庭などの緑化を進めてほしいという点である。そうすることで様々な波及効果があると考えた。例えば、芝生で子どもが遊び、それをシルバー世代が見守ったり、あるいは芝生の管理などに地域の人に関わるなどによって、交流が生まれ、地域が活性化すると考えられる。
- ・スウェーデンなど海外では教育の成果が上がっていると聞いているが事例としてわかれば教えてほしい。

Cグループ

- ・空間的な問題として子どもが安全に遊ぶ場や居場所がないということを挙げている。
- ・人間関係の場が失われているという点で、コミュニケーションの場がない、隣の人が他人になっているなどをまとめている。次が家庭における子どもを育てる、子どもが育つ力が弱まっているのではないかという点である。家庭の機能不全や親が核家族化の中で子育てを学ぶ機会がなかったのではないか、子育てを学ぶ支援、子どもが小学校に入ってから座って話を聞くというしつけができなくなっているなどについてまとめた。家庭にお

ける子育て力の低下は、一人ひとりが変わったということより社会の変化によってなっ
てしまっているのではないかと考えている。

- ・学校の子育て力の低下ということが三つ目である。教育の目的意識がなくなり、知識教育に偏重し、体験学習などが少なくなっており、将来の生きる力に結びついていかないのではないかとこの点が挙げられた。また、子育て体験という点で、小さい時から乳幼児とふれあう機会がないのではないかとこの点が挙げられている。また所得格差と教育格差の問題、また、先生は一生懸命やっても、親や子どもが変わってきているなど社会変化の問題、制度の問題などがある。
- ・どういう方向に持っていきたいかという点についてであるが、子どもの居場所については廃校などを有効活用する、交流しにくいということについては交流の場と交流の後押しをするコーディネーターを育てるなどの仕組みを考えたらどうかという点が挙げられた。また、先生達の講習の時間を作ったり、家庭が子育てを学ぶ機会を設けるなどソフトに力を入れたらどうかという点が挙げられた。江東区ではハードの予算が大きいので、ソフトの事業を増やしたらどうかというのが全体の意見である。

Dグループ

- ・江東区は人口が増え、それに伴うハード・ソフト両面が必要である点がまず挙げられた。
- ・江東区には公園はあるが、公園ではなく、プレイパークにして指導者を配置し、自由に遊べる空間とする。児童館については、乳幼児から高校生までが活動でき、交流できるようにしていくことで、子どもの遊ぶ場を充実させることが必要ということが整理された。
- ・保育園が足りないという点については、保育園を整備することと、質を担保することが必要であるとの意見が挙げられている。
- ・育児中の親の支援について、特に新住民の方はとまどうことが多いのではないかと。子育て支援としては、保健所や児童館などもあるが、区内に5箇所ある子ども家庭支援センター「みずべ」では、グループが出来ていて入りにくいなどの話があった。そのためには、歩いていけるくらいの距離にある既存の施設を使って、子育て支援ができないか、また、自主保育をしている方に区の空き施設を使って保育をしていただくなど、今あるものを活用するだけでも、ハード・ソフトの現在の不足に対して色々なことができるのではないかとこの意見となった。

高重コーディネーター

- ・他のグループの話を聞いて、意見や感想があればどうぞ。

参加者

- ・自分たちでできることもあるのではないかと思う。
- ・場所は提供されても利用する人がいないというような事例もあるように思う。身近なことで、自分たちでできることがあるのに、行政にやってもらえない、とっているようなこともあるのではないかと。
- ・町会集会場は老人会や町会の飲み会程度にしか使われていない。

参加者

- ・町会の集会場は、葬儀などの突然の利用があること、障子・畳などの仕様になっているため、子どもの日常的な利用が可能かどうかは問題である。

参加者

- ・地域をつなげるコーディネーターは必要だと思った。またプレイパークもよいと思う。

参加者

- ・集会場でも1時間1000円などの料金がかかる。自主保育などの活動団体については、7割補助にする、あるいはおもちゃ置き場に使用してもらうなど工夫できるのではないか。

5 . 次回の議論について

高重コーディネーター

- ・次回は本日の議論を踏まえて、将来イメージについて詰めていきたい。また、区民ができること、行政にやってもらいたいことなどを踏まえながら、将来像実現のためのアイデア出しも行っていく。
- ・次回からは、関心のある分野やテーマに別れて議論を進めることにしたい。

6 . スケジュールについて

<次回以降のスケジュール>

第4回 11月28日(水)19:00~21:00(場所)文化センター2階 旧区政PRコーナー

第5回 12月13日(木)19:00~21:00(場所)文化センター2階 旧区政PRコーナー

Aグループ

親の意識

親の認識不足の改善
育児教育は親の責任

家庭が子どもの居場所として良いものであるために、親の働き方や社会の労働の仕方などにもっとゆとりがないといけない。少なくとも子どもの話が聞ける家庭になるように

子ども達は何を期待しているか、子ども達のことをもっとよく知るために何をしたらよいか

安全(安心)対策

子どもの安全を守るために子ども達から子どもらしい時間・空間をうばわないために何をすべきか

子どもの安全に対する課題
交通事故、その他(水難事故など)変質者対策

学校・家庭以外の子どもの居場所づくり
目的がなくとも集まる場所からスタートするには?

夜道の改善
暗い夜道が多いので

地域で顔を合わせる環境づくり
安全、安心

行政に対する要望

施設の基準
粗末でも十分な量(質は次)

重点形成(地域)
南北地域の事情に合わせた配置

ソフトの提供
ハード、補助金からの変換

見積り余の余裕
現在の待機児童は参考にならない

子育て支援

助け合いができる子育て社会

子育て育児負担を軽減させるための対応
育児相談充実
保育施設の充実

世代間の交流

親子体験学習
土に親しみ、食育を大切に、食料自給率100%は本当に理想だと思う

地方で触れあえる環境を体験する機会をつくる
砂浜や森・山

地域社会

学校が地域に位置づくために親もも地域の人たちもその地域や学校を大切にできるようにする(学校選択など地域を軽視するなどはダメ)

土日開庁
家計維持者(働いている人)の育児・教育への参加

学校の開放
地域の人が集まれる場所として

地域社会が子育て、教育にどう関わっていくか、システム・組織づくりが必要

教育

小中学生にもっと音楽や美術など心豊かになる授業を充実させる

学力の重視
自立を助ける基本

幼稚園と保育園の格差をなくす(どちらが良いか)

コンピューター等近未来
必要性が高まるものを重視

学校での授業が充実するために協力しあい(助け合って)学べる学級(人数を30人以下にする。様々な能力の子どもと一緒にいる)にする

競争教育でなく、個性を大切にしつつ、基礎的な力を身につけられるようにする。そのために経済的格差を行政でフォローできるように

学校にゆとりと個性がうまれるように自由・創造が生きる行政のあり方が望ましい

個性に合わせた教育
幅広い基準で伸び伸びと教育

幼稚園を3年間に生活習慣を身につける補助

Cグループ

子どもの安全で自由な居場所がない

子どもが自主的に活動する場の不足

遊びによる育ちの不足

中学生、高校生(特に片親の)が夜間過ごせる場として学童保育が終わった部屋、図書館、または一般家庭にお願いしては?

子どもが安心して遊ぶことができる所がない

子どもが安全に外でのびのび遊べない

放課後の子ども見守り不足

両親で働くどうしてもあそびになる子育て環境

バランスのとれた緑の不足

家庭

家庭の子育て力の低下
社会の変化

家庭の機能不全
家庭支援

給食費を払わない
社会規範が崩壊

親が核家族化等で子育てを学ぶ機会がない

子育てを学ぶ支援の機会の増加

7歳までに座って話を聞くしつけができない

解決策

予算のハート(ソフト事業)をもっと増やそう

地域の大人の目をもっと増えること

テレビゲーム等家の中での遊びを外に向けて、世代を超えて交流できる場所を

小学生が農山漁村に長期滞在して体験活動を行うよう国が補助金を出すことですから大いに体験学習をすべきである。受け入れ先は一般家庭が望ましいので県市町村にあたり協力を...

具体的には、第三大島小学校が移転した跡地が更地になっているのを利用した区民農園等にして子ども達と一緒に作物を育てていきたい

地域の行事をもっと広く参加しやすくする

人間関係

コミュニケーション能力が不足

隣にいる人が他人である社会

市民が子育てや教育に参加する機会が乏しい

コミュニケーション能力が乏しい(若い人も年長者も)

地域参加が崩壊、弱い

新住民と旧住民のギャップがある

学校

目的意識のない学校教育

体験学習の不足

知識教育の偏重

公教育の充実(予算の配分増)

所得格差が教育格差につながっている

子育ての体験不足
授業に取り入れる

先生が尊敬されない大人(親)がしていない、子どもも真似をする

学校の地域対策(不良躰対策)我が子可愛さからか全(無理解な親、苦情ばかりで学校を悩ます親指導(対策)をする専任を持たない)

学校、学びの貧弱化

人が集まる場があればよい参加しやすい方策

老人と子育て世代の交流の場
文化センター、廃校の開放で(地域の)交流の場をつくる

親父の会
子どもと親同士の交流の場

子育てサポーターや教育サポーターなどの市民参加の制度の創設

乳幼児と子ども達の交流教育の場に赤ちゃんと交流の時間を総合的な学習の時間

NPOや市民団体を増やすための施策(予算配分増)

家庭訪問型子育て支援。子育てスタートの躰きはささいな事でも大きくなる要因となる。早期の支援は地域ボランティアで支援しよう

交流の背中を押す仕組み

地域をつなげるコーディネーターを作る

Bグループ

教育体制の確立

親の経済力による平等な教育の実践の阻害はこれからの10年間で表に現れてくるので公的な補助が必要

世の中の流れは週休2日制になっているので、土曜日、休日の学校での教育のためには教師の増加は避けられない。区の税金でまかなえるか

教育に熱心な親と昼間子どもをあずかってくれるだけでも助かるという親との温度差は大きすぎる

スウェーデン等ヨーロッパの義務教育制度は日本とどこが違うか学びたい

豊かな情操教育

家庭の子育てで豊かな心の育成、歴史と文化を知ること育てる

幼稚園から絵本、本に関心を持ち情操を向上させる

子どもの体験教育(ボランティア体験)

地域の活性化 子ども達とシルバーの交流(触れ合い)生きがい

スローライフ

子育て、育児支援の相談窓口の設置

0歳～2歳位までの子育て親子のコミュニケーションの場を各町会で利用できるようにする

世の中の変化のスピードがますます速くなるので、コミュニティ道路を利用したまちづくりが人の心をなごませるし、子ども達的情操を育てると思う

地域の大人たちが、(シルバー)ボランティアによる管理 芝生等給水、手入れ 子どもの安全 遊び…指導、教育

温故知新

遊び…温故知新 江戸、昭和の遊び、玩具の紹介等

江戸しくさから(復活)大人の交流、人情みあふれる

子どもも大人も出会ったら声かけあい挨拶できるまちづくり

子育てのために 地域施設の利用

道徳教育を座学で教えることも大切だが、農作業を通じて命の大切さを学ぶことの方が喜びがでてよいと思う

各地域に交流場所を確保し、年齢を問わない交流センターの開設

子どもも大人も利用できる学校の空き教室開放が望まれる

緑化効果 環境(ヒートアイランド対策) 健康(精神安定)

各学校の周りを利用すれば野菜作りはできるように思えるし、町の中に経験者がいて地域と学校のコミュニケーションになる

地域の大人が一体となって見守る安全な子どもの遊び環境 小中学校の校庭の緑化(芝生等の張りつけ)

子どもの遊ぶ場所の充実

<プレイパーク> 遊び指導員をいた公園

公園など多い区だと思いが有効活用されているか。公園などのイベントやクラス

遊び場が不足 子ども達が元気に遊べる公園やボール遊び、キャッチボールなどできる遊び場の充実、緑や水辺のたくさんある公園づくり

既存の文化センターの利用拡大と指導員の育成(例:自主保育の拠点とする)

子育てサロン、子ども(中高生含む)の遊び場としての「ひろば」の充実 児童館の充実

Dグループ

育児中の親の支援

親の支援や仲間づくりの支援 幼児を持つ親の学級の拡大、幼児を持つ親同士が気軽に遊びに行けて仲間作りができる場所づくり

指導員の研修 保護者の教育

みずべなど、誰でも参加できるようにする みずべの職員などによる仲間づくりの促進

親(育児中)の相談窓口の不足 みずべ(子ども支援センター)などで気軽に安心して子どもと離れて親の悩みを相談できるようにする

家庭で保育する親への支援が不足 保健所の一時預かりの安価での利用や男女共同参画センター、さくらんぼ保育園のような施設の充実

育児する親(特に母親)の負担が大きい 負担軽減(新生児訪問の第2子以降の実施 育児学級や母親教室など保健所のサポート拡大

学校教育全般

教育に関して区内の地域によって違いを感じる。統一する必要はないが、意見交換などの場がない交流の場

学校教育に体験学習を取り入れる 校舎を増やしていく 自分の将来像

子どものときから忙しい。ストレス多い子ども。 子ども自ら学びたい気持ちにそった教育づくり

学校教育 教える教育主体から自分でテーマを決めて学び、互いに議論できるような教育が望ましいと思う

豊かに学べる学校 少人数学級の充実 小さい学校を廃校にせず大事にする

増加する特別に支援を必要とする子どもへの教育 特別支援学校の新設(臨海部) 特別支援学級の新設

選択肢のたくさんある教育カリキュラム 語学・体育・珠算

異年齢や異世代の交流の不足 未就園児、幼稚園児、小中学生の交流や幼児と高齢者の交流の機会を増やす

子どもの多種多様な体験の不足 子どもに農業体験をさせたり、親の働く姿を見せる機会をつくる

保育施設の充実

保育園での保育 「保育の質」を担保、向上させるための区民参加でのシステムを作る(文京区などの区民参加会議)子育て世代でも無理なく参加

100人を超す過密、過大な学童保育 適切な定員での学童保育増設 放課後子どもクラブではなく学童保育

日本一の保育園待機児童数 認可保育園の大幅増設、区立の保育園新設 「認証」「認定子ども園」は保育の質の低下を招く

幼稚園の入所困難 区立にも3年保育を作る。選択肢の拡大

保育園などの数が少ない数の増加

保育所の不足 保育所を増やす。子ども園の充実(就業しているかどうかに関わらず必要と思う人が利用可能になる)

子ども、親を混乱に陥れている保育園民営化 実際の検証を十分にやり、子ども達のためになっていないのであれば再検討する

(質が整った)保育施設の充実

子どもの可能性を伸ばす

子どもが社会の一員として、また、世界の人たちと協力して生きていけるよう育てていけたらと思う。当然地域の援助は必要

子ども=日本人の代表として誇りをもって世界の人たちに主張できる(国益について)また、協力もできるような大人になってほしい

10代の子どもや青年が自分の可能性を伸ばす機会がない 児童館 青少年の家

子どもが安心できる場所、相談できる窓口がある。子どものいじめ問題など

子育て環境整備

子育てがしやすい社会環境づくり 労働時間、休暇制度等で子育てしやすい社会システム 「8時に家族そろって夕食」はみんなしたいけど、したいと思うだけではできない

地域交流(ソフト)地域資源(ハード)の活用

道徳、躰、家庭と保育、学校との連携